



支部定期総会を開催

8月8日(土)の午後、藤沢市内で湘南支部の第14回総会が開催されました。

総会は山内幹郎副支部長のあいさつに続いて、大森猛神奈川県連会長が来賓として、支部のオンライン役員会の実施や藤沢市での育鵬社の社会科教科書不採択などにふれながら、組織拡大への期待をごあいさつくださいました。

続いて、小林麻須男さんを議長に選出し、古牧悠紀子理事が大会成立の資格審査報告を行いました。

その後、議事に入り、山内副支部長による活動報告では、活動経過の詳細とともに7点に要約された活動の総括がなされました。引き続き、渡辺智恵子理事による決算報告と府川清監査による4点にわたる会計監査報告、今野耕太副支部長による6点におよぶ運動方針の提案と渡辺理事による予算の提案が行われました。さらに、山内副支部長から規約改定(役員の名称変更)の提案がなされ、それぞれの質疑応答を経て、採決に移り、すべての議案を全会一致で採択しました。

最後に次期役員の見解と選出(全員が再任)がなされ、新役員を代表して山内副支部長があいさつを行い、今野副支部長の閉会あいさつで終了しました。



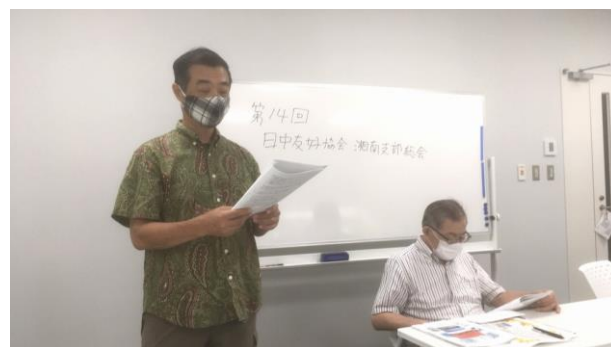
山内副支部長の活動報告



渡辺理事の決算報告



府川監査の会計監査報告



今野副支部長の運動方針提案

講演と音楽のつどいに反響

湘南支部は中国国歌の作曲者・聶耳（ニエアル）の没後 85 年を記念する講演と音楽のつどいを 8 月 8 日午後、藤沢市内で開催しました。

講師は日本における聶耳研究の第一人者である岡崎雄児さん（元中京学院大学教授）です。パワーポイントを使って聶耳の人となり、藤沢での事故死のめぐる諸説、中国における聶耳の足跡、藤沢での記念活動などを手際よく解説されました。



後半は『増補版聶耳全集』に収録されている CD から国歌となった「義勇軍行進曲」のほか、映画音楽、児童歌曲 11 曲を鑑賞しました。中でも「碼頭工人」（波止場労働者）を歌う聶耳自身の澄んだテノールやアメリカの公民権運動の活動家でもあったポール・ロブソンの歌う「起来！」（義勇軍行進曲）が関心を呼びました。

質疑応答では、聶耳の名前には耳が 4 つもある不思議や少年時代に受けた雲南の少数民族音楽の影響などについて問答があり、参加者からは「珍しいものを聞かせてもらった。いまの米中関係を考えると複雑な思いだ」「戦後を生きた古閑裕而との対比で聶耳の死は残念」などの感想が寄せられました。

県連大会に支部から参加

8 月 23 日に日中友好協会神奈川県連合会の大会が開催され、湘南支部から大橋一夫、府川、今野の 3 名が参加しました。



10 月講演に期待高まる

湘南支部は下記の要領で講演のつどいを開催します。新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては開催方法などが変更になる場合があります。

講師は平塚在住の詩人で、湘南支部の役員も務める府川きよしさん。日本近現代史のダイナミックな動きを長いスパンで俯瞰する壮大な企画に期待の声も高まっています。ぜひ、ご参加ください。

日中友好講演のつどい

花水川流域の「自由民権運動」と日中「70 年戦争」

日時：10 月 10 日（土） 13 時 30 分～

会場：藤沢市役所本庁舎 5 階 第 2 会議室

講師：府川きよしさん 資料代：300 円

講師紹介：詩人。日中友好協会会員歴 40 数年。

協会神奈川県連役員（事務局長など）歴任。

現在、横浜詩人会議代表、平塚民商副会長。詩集

「花水川物語」など詩集 5 冊発行。

・・・湘南と県央地域を流れる花水川流域で明治期に展開された自由民権運動の盛衰、民権結社「湘南社」の活動と農民・困民党の闘いをたどる。その後 1874 年の台湾出兵から説き起こし、1945 年の敗北までの日中戦争全史を俯瞰する壮大な近現代史の講話。

<http://nicchushounan.sakura.ne.jp/>

TEL & FAX：0466-33-4003

メール：myama@cityfujisawa.ne.jp

聶耳の命日に献花

7 月 17 日は聶耳の命日です。コロナ禍で例年の碑前祭は中止となりましたが、雨の中、鈴木恒夫藤沢市長、中国国歌作詞者・田漢の姪にあたる田偉さんら数十人が訪れ、湘南支部や神奈川県連の参加者らが献花しました。

